

ヨハネによる福音書9章2-3節 「禍に応える神」

1A この世にある禍

1B 苦しみに直面する人間

2B 事故現場に立ち会う人々

1C 警官

2C 救急隊員

2A 生まれつきの盲人

1B 「だれの罪か？」

2B 「本人でもなく、両親でもない」

1C 原因探しをする人間

2C 結果に寄り添う神

3C ヨブの友人と神

3B 罪を警告される方

3A 神のわざのため

1B 罪の結果をも計画に入れられた神

1C アダムの罪

2C キリストの十字架

3C 万物の回復

2B 禍をご栄光に用いられる方

4A 光として遣わされた方

本文

ヨハネによる福音書 9 章を開いてください、私たちの聖書通読の学びは、8 章まで来ましたが、今日は午後に 9 章全体を一節ずつ見ていきます。今朝は、9 章 2-3 節に注目します。「2 弟子たちはイエスに尋ねた。「先生。この人が盲目で生まれたのは、だれが罪を犯したからですか。この人ですか。両親ですか。」3 イエスは答えられた。「この人が罪を犯したのでもなく、両親でもありません。この人に神のわざが現れるためです。」

1A この世にある禍

1B 苦しみに直面する人間

私たちは、何か大変なこと、災い、苦難、事件などが起こるとき、人間は必ず、「なぜ、そんなことが起こるのか？」と思います。原因や理由を知りたいと願います。なぜそんなことが起こったのか、どこで間違ったのか？と問い続け、それでも分からないので、そのやるせなさを、何かにぶつけます。今の新型コロナウイルスには、多分にありますね。政府に対して、厚労省に対して、在日

中国人に対しても行われています。そのように、原因がこれだとして叩きます。

そこで思い出すのが、北朝鮮による拉致事件についてです。横田めぐみさんが拉致された後に、お母さんの早紀江さんは、友人のクリスチャンから勧められた、聖書のヨブ記を読んで、それがきっかけでクリスチャンになりました。けれども、お父さんの滋さんは、長いことクリスチャンにはなろうとはしませんでした。早紀江さんが言うには、めぐみさんが拉致された後、いろいろな宗教の人たちがやってきたそうです。それで、「あなたがそのような不幸が起こっているのは、先祖がこんなことをしたからだ。」「だから供養のために、これこれのことをしないといけない。」とか、なぜそんな悲劇が起こったのかを得々と説く話ばかりをされたそうです。それで宗教はごめんだ、となったのです。しかし主はすばらしい方です、3年前に水のバプテスマを受けられました。

2B 事故現場に立ち会う人々

「先生。この人が盲目で生まれたのは、だれが罪を犯したからですか。」という、原因探しをしたがる性質は、人間の心の奥底に横たわっているということですね。そこで、アメリカ人の牧師がとても分かりやすい喩えで話してくれました。アメリカは車社会ですが、自動車事故は、よく知る光景です。日本でも同じだと思いますが、そこに二種類の人々が来ます。

1C 警官

最初に到着するのは警察です。まず現場を保護しようとして、野次馬を下がらせ、救急隊員が作業できる場所を確保します。そして、目撃者がいないかを尋ね、いたら待つように指示して、その人の所へ来て質問します。誰が過失を犯したのかを判断しようとしています。そして事後報告書を作成し始めます。そして過失を犯したと思われる者に、裁判への出頭を命じる召喚状を作成します。警察は、このように誰の過失かに集中します。

2C 救急隊員

そして次に、救急隊員が来ます。彼らは誰が過失を犯したのに全く関心がありません。そこに倒れている怪我人に急いで寄り添い、傷口に包帯をしめ、痛みを和らげ、傷の手当てをし始めます。そこで誰の過失かを犯したのには、全く関心がありません。キリスト教というのは、本来、この救急隊員のような働きだということです。すなわち、罪からくる苦しみや傷を、その原因探しをするのではなく、その傷に寄り添い、キリストの癒しをもって癒すということです。

2A 生まれつきの盲人

1B 「だれの罪か？」

弟子が、今ここで、「この人が盲目で生まれたのは、だれが罪を犯したからですか。この人ですか。両親ですか。」と尋ねています。生まれてから後天的に盲目になったのではなく、生まれた時に既に盲目になっていました。盲目になったというのは、それなりの罪があったからだ、当時の

ユダヤ教は、みなしていました。確かに、アダムが罪を犯した人によって、人々に病が入っていたのですが、けれども、その病を持っている人がその人の罪によってそうなったのか？ということになると、違いますね。けれども、当時のユダヤ教ではそう考えられていました。

けれども、後天的ではなく生まれつきということは、その人が生まれる前に犯した罪ということです。母の胎内で犯した罪であろうと考えたのです。ダビデが詩篇 51 篇で、「私は咎ある者として、罪ある者として、母は私を身ごもりました。」というところと、ヤコブとエサウが母リベカの胎でぶつかり合うところから、母の胎において罪を犯すので、そのために生まれつきの盲人だとしたのです。しかし、そこには大きな誤謬があり、「原因探しをしている」ということなのです。

そして両親というのは、「出 34:7 罰すべき者を必ず罰して、父の咎を子に、さらに子の子に、三代、四代に報いる者である。」というものがあり、これによって両親の罪ではないか？としています。

2B 「本人でもなく、両親でもない」

1C 原因探しをする人間

しかし、イエス様は、きっぱりと言われました。「この人が罪を犯したのでもなく、両親でもありません。」つまり、この人が盲人になったのは、どちらの罪でもないとして、「原因」を述べていないのです。私たちは、自分たちの及びもつかないことが起こっている時に、原因を探ることよりも、主によりすがって、信頼していることを選ぶべきです。「詩 131:1 【主】よ私の心はおごらず私の目は高ぶりません。及びもつかない大きなことや奇しいことに私は足を踏み入れません。2 まことに私は私のたましいを和らげ静めました。乳離れした子が母親とともにいるように乳離れした子のように私のたましいは私とともにあります。3 イスラエルよ今よりとこしえまで【主】を待ち望め。」

2C 結果に寄り添う神

そして、私たちが主のそばに寄りすぎる以上に、主が、そうした結果に寄り添ってくださいます。主は、原因を私たちに明かしてくださらないことが多いですが、しかし、その結果、苦しんでいる人間のそばにいてくださるのです。思い出してください、前回の学びで、姦淫の現場で捕らえられた女がいました。捕えた者たちは、モーセの律法に従って、この女に石を投げるべきですか？と問い質しました。けれども、イエス様は、「罪のない者が、まず、この人に石を投げなさい。」と言われたら、一人ずついなくなり、ついにイエス様と女だけになりました。そして、イエス様は、「だれもあなたにさばきを下さなかつたのですか。」と尋ね、「はい、主よ、だれも。」と答えると、主は、「わたしもあなたにさばきを下さない。」と言われました。そして、これからは決して罪を犯さないように、と注意されました。罪を明らかに犯した者に対しても、主はその罪を責め立てることなく、むしろ、この女のそばにいて、それで彼女がこれから罪を犯さないように命じておられるのです。

イエス様は、「3:17 神が御子を世に遣わされたのは、世をさばくためではなく、御子によって世が

救われるためである。」と言われました。そしてこれこそが、神の真実な御姿だったのです、イエス様は父なる神を完全に表した方で、この方を見れば、父を見たのですとイエス様は、ピリポに語られました。

3C ヨブの友人と神

ヨブの話しを思い出してください。その人間ドラマは、非常に壮大です。1-2章で、サタンが神に近づき、神をそそのかそうとする場面から始まります。ヨブは財産があるから、また健康があるから、主を恐れているのであり、それを削がれたら呪うに違いないとそそのかし、神は意図的に、サタンの願うことを許されました。ヨブに対して信頼がそれほど、あったとも言えます。

しかし3章以降、ヨブが苦しんでいるところに友人たちが近づき、ヨブが生まれた日を呪ってからは、彼らはヨブの苦しみは、彼が罪を犯していなければそんなことは起こらない、としていました。その議論が延々と続きます。友人たちは、ヨブが自分がこの苦しみに値する罪を犯した覚えがない、無実だということを語れば語るほど、その頑なな姿こそ、隠れた罪が隠れたままになっていると責め立てて、ついに、何の根拠もないのに具体的に彼が犯した罪まで言い始めました。

そんな中でついに、神がヨブに現れました。そして、ご自身の天地創造におけるご自分の栄光を示し、ヨブはついに、ひれ伏して悔い改めました。そしてヨブを回復させますが・・・あれれ、ついに神はヨブに1-2章のことを話しておられないのです。神はヨブが悔い改める前に、「実は、わたしのところにはサタンが来てな・・・」なんという説明をしていないのです。原因を語っておられない、けれども、ご自身が現れて、ご自身をヨブに見せて、それでヨブがご自身の前にへりくだるようにさせたのです。苦しみのところに神ご自身が寄り添い、そこからの回復を与えられたのです。

3B 罪を警告される方

もちろん、神は、罪について警告を与えられます。アダムに対して、善悪の知識の木から実を取って食べてはならないと言われました。それは、人が善悪を知ったら、神との関係が切れてしまうことを知っておられたから、そのように警告を予め語っておられました。主は、そのような形で、あることを行えば、こうになってしまうという警告を与えられ、その言うことを聞かなければ、その通りになってしまうのです。子供に、「アイロンに触っちゃだめよ」と言っているのに、触って大やけどになるように、罪に触れてはいけないと言っているのに、触れたらそれなりの結果が生まれ、罪を犯した者は死ぬと聖書には書いてあるのです。

3A 神のわざのため

1B 罪の結果をも計画に入れられた神

1C アダムの罪

しかしながら、この世界にある苦しみの多くは、アダムが罪を犯したことにより、呪いが世界に入

ってきた結果です。「ロマ 5:12 こういうわけで、ちょうど一人の人によって罪が世界に入り、罪によって死が入り、こうして、すべての人が罪を犯したので、死がすべての人に広がったのと同様に――」病も天災も、その被害を受けた人々が必ずしも、その人が行った罪によってそうなったのではないことを知る必要があります。

2C キリストの十字架

そして、神は決してその苦しみにその原因に帰することはなさりませんでした。いや、むしろ、人間の世界の中に、その苦しみに入ってきてくださったのです。今、ウィルスの感染を防ぐために、無菌状態にしようとするんですね。少しでも菌があれば、それが広がるから防ごうと躍起になっています。しかし、それはどだい、無理なことです。神がもし無菌のようなことを好むのであれば、そもそも、イエス様をこの世に遣わされませんでした。主は神であられるのに人となられ、しかも、人々の間に住まわれた、とあります。それは父と自分が一つであるように、キリストにあって人と一つとなり、また人々をご自身にあって一つにしようとした。

ですから、主は人々の苦しみの中に入られたのです。その原因である罪そのものも、十字架の上で背負われることによって、そのまま苦しみの中に入り、傷を受けられました。そして私たちは、そのキリストの裂かれた肉、流された血によって、私たちと一つになってくださいました。

3C 万物の回復

このようにして、主は私たちのために死なれ、甦られ、そして天に昇られました。そして、主が再び来られる時に、被造物の全てが、その束縛から解放されるようになります。その時には、罪からの結果である苦しみを取り除かれます。「ロマ 8:21 被造物自体も、滅びの束縛から解放され、神の子どもたちの栄光の自由にあずかります。」

2B 禍をご栄光に用いられる方

ですから、私たちは、たった今、存在する苦しみについて、こう考えることができます。「将来、これらの苦しみは、キリストが再び来られる時にすべて取り除かれる。」しかし、それまでは、神は災いがこの世にあるのを、許容されています。その時に、神がなされることは次のことです、「**この人に神のわざが現れるためです。**」主は、罪のよってもたらされた災いや苦しみを、ご自分のわざが現れるために、そのままにされるということをなされるのです。生まれつきの盲人がそうになっているのは、その盲目の状態によって、神のわざが現れるようにされました。

ヨセフのことを思い出してください。兄たちが彼を、エジプトに向かう商人たちに奴隷として売ってしまいました。それで、彼は次に、牢屋に入れられました。牢屋にファラオの側近が入って来て、ヨセフはその一人に出獄できるように頼んでくれと言いましたが、すっかり忘れました。これらの災いが次から次へと彼の人生に押し寄せてきたのです。しかし、神はそれらをすべて動かしておられま

した。それはヨセフがエジプトで総理大臣になるためであり、その権力によって、飢饉からヤコブの家族を救い出すためであったのです。大事なのは、これらのことは確かに災いであって、忌み嫌うものばかりです。それらが正しかったという話をしていてはなりません。「創世 50:20 あなたがたは私に悪を謀りましたが、神はそれを、良いことのための計らいとしてくださいました。」悪は悪なのです。それが善になることはありません。しかし、その悪さえも神は、良いことのために計らってくださいる方なのです。

ですから、神は、私たちに、災いを通らせるようなことを為される時に、「理由は分からなくとも、その災いを受けている人々と共に生きなさい。愛によって、真実な行いを示しなさい。そうすれば、神のわざが現れるのだから。」ということであります。例えば、私たちは今、コロナウィルスが広がっている中にあります。政府は、集会の自粛をお願いしています。その大きな目的は、もはや自分たちが感染しないように、という恐れではありません。国民が一丸となって、一つの集団かからもう一つの集団に感染する経路を絶つことに力を注いでいます。私たちが、集まっても、そうしたことに気を付けていること自体が、愛を示していることになります。そして、韓国では、大きな教会では修養会の施設などがあります。それらの建物を、今、軽症の感染者が滞在することができるようにする手続きを取っていて、そうすれば医療施設不足に悩む状況を少しだけでも解消できるのだそうです。理由が分からなくとも、その苦しみに寄り添うことになって、主が何かをしてくださいます。

4A 光として遣わされた方

最後に、イエス様はこう言われました、「9:4-5 わたしたちは、わたしを遣わされた方のわざを、昼のうちにを行わなければなりません。だれも働くことができない夜が来ます。わたしが世にいる間は、わたしが世の光です。」

主は、暗き世において光となってくださいました。そして今、天に昇られた後は、私たち教会が、世の光になるように召しておられます。この難しい時代に、私たちが積極果敢に、その苦しみに寄り添うものでありますように。